



駒林小 学校便り

～2023年4月、駒林小学校は創立50周年を迎えます～

令和4年度
7月号

人は人によって人になる

学校長 西尾武泰

関東地区では早くも梅雨が明け、本格的な夏の訪れを感じさせる頃となりました。学校では5・6年生の水泳授業が始まり、子どもたちが元気に水の中を泳ぐ姿も見られます。

6月19日に港北公会堂において、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト港北区審査会」が開かれました。よこはま国際平和スピーチコンテストとは、日本の平和や国際平和のために、自分の考えや自分がやりたいことを言葉で表現することによって、日本の平和や国際平和に対する意識を高め、平和のために自ら実践しようとする態度を育成することを目的としています。今年度のテーマは「国際平和のために自分がやりたいこと」で、持続可能な開発目標(SDGs)に基づく17の視点から、港北区の各小学校の代表児童が3分以内で自分の考えをスピーチして競い合うものです。本校からは6年生児童が「地球温暖化を和らげるために」というタイトルでスピーチしましたが、自らが被災した経験をもとにして、温暖化を和らげなくてはならないという気持ちが会場全体に伝わる素晴らしいスピーチでした。その審査会に私は審査員として参加したのですが、その他の学校のスピーチも、たくさん練習した成果が十分に発揮されていて素晴らしかったです。ですので聞いている子どもたちも、スピーチの内容に大きくうなずいていましたし、聞き合うことにより、お高いが共感し高め合っている様子も見られました。

別の日の掃除の時間に私が校内巡回をしていると、6年生の子どもたちが廊下の雑巾がけを一生懸命に行っていました。本校では教職員は5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の励行を合言葉にして取り組んでいます、それにも負けないように子どもたちも一生懸命に掃除をしている姿が美しく、真面目に取り組んでいることを嬉しく思いました。そして、きちんと掃除をしている6年生の姿を見ていた下級生も、廊下や階段の掃除を一生懸命に丁寧に行っている姿も見られました。

AIの進化により、今後、無くなっていくと予想される職業が話題となったことがありました。学校も「授業の上手な先生の様子を動画で撮影して、オンラインで流せばそれで済むのではないか。」という話を聞いたこともありますが、このようにスピーチコンテストでお互いが高まっていく様子や、上級生の掃除を見て、下級生も育っていく様子を見ると、昔から言われているように「人は人によって人になる。」「人間は、人間にしか育てられない。」「子どもは子どもの世界で育つ。」という言葉がぴったりと当てはまると思った瞬間でもありました。

これからも駒林小学校全体で、お互いに高め合える空間となるよう努力をしていきますので、今月もご支援とご協力をよろしくお願いいたします。